

予防接種05年から中断

免疫ない幼児急増

厚労省が作製した日本脳炎ウイルス感染への注意を促すポスター



七〇%から一〇%前後にまで低下し、ウイルスへの免疫を持っていない幼児が急増している。

東アジア地域特有の感染症「日本脳炎」ウイルスの免疫を持っていない幼児が増えている。中学生が予防接種の副作用で寝たきりになった問題を機に二〇〇五年以降、自治体による予防接種が事実上中断しているためだ。来年四月には問題点を改善したワクチンが供給される見通しで、専門家の間では、義務的予防接種を再開すべきだという声が高まっている。

「夏休みで旅行に行こうと思うのだけど、大丈夫でしょうか」「ワクチンはありませんか」。今夏、鹿児島県健康増進課や保健所には、こんな問い合わせが相

日本脳炎 高まる危険

次いだ。いずれも幼い子供が日本脳炎に感染するのを心配した母親からだった。今年梅雨明けが早い地域が多く、感染源となる豚の間で日本脳炎ウイルスの拡大が例年よりも早かった。このため、媒介蚊が多く分布し、患者が出やすい中国、四国や九州・沖縄地方の各自自治体



致死亡率は二〇%を超え、命が助かっていても脳に重い障害が残る場合が多い。一九五〇年代までは年間十人単位で発症例があったが、予防接種法に基づく義務的ワクチン接種の効果で九二年以降の患者数は年間十人以下

新ワクチン「義務的」再開求める声

は人への感染に対する警戒感を強め、鹿児島県や高知県などは日本脳炎注意報を

ただ感染を防ぐうえで最も確実な予防接種を実施できない以上、行政としては「幼い子供の患者が出ないことがむしろ不思議なくらい

にとどまっている。潮目になったのは、〇五年、山梨県内の女子中学生が予防接種後に寝たきりになった問題。厚労省は同年

高崎智彦ウイルス第一部第二室長」という見方もある。来年四月には従来の問題点を改善した新たな製造法

発令。発症者は八月下旬以降に増える傾向があり、九

「蚊に刺されないよう注意」を促すしか方法がない「厚い」日本脳炎は豚の体内で増殖したウイルスが「コガタ

が予防接種後に寝たきりになった問題。厚労省は同年五月、都道府県などに積極的推奨を中止する通知を出した。接種率は通知前の約

換体制を強化した。

生労働省幹部)のが実情。今年を含め最近の発症者はアカイエカ」を媒介として

六十歳以上の高齢者がほと人に感染する。発症すれば、方向で検討に入っている。